

Nuclear Weapons Inheritance Project, Germany
Katharine Bergman

核兵器遺産プロジェクト、ドイツ
カタリーナ・ベルグマン

友人の皆さん、今日皆さんへの発言の機会をいただいたことに感謝したいと思います。

最初に皆さんの尽力に感謝したいと思います。核兵器反対の声を上げるために日本中から来たなんて素晴らしいことです。

私の名前はカタリーナ・ベルグマン。ドイツの医科大学生で、核戦争阻止国際医師連盟のひとつである核兵器遺産プロジェクト (NWIP) のコーディネーターをしています。

NWIP の名前は、私たち青年は核兵器を両親たちの世代から引き継ぎたくない、そして自分の子どもへも継承したくないという思いを表しています。

どうしたら私たち学生や青年が核廃絶のプロセスに参加することができるのでしょうか？
どうしたら私たちは国際的な核政策に影響を与えることができるのでしょうか？

この点についてこうしたら私たちが意思決定に影響を与えることができる、という変化のお手本を話したいと思います。

私たちができることは友人や家族などに知らせることです。もし知らせることができれば、行動を起こすことができます。例えば私たちは署名や小さな街頭行動に取り組むことができます。こういった行動によって関心を高め、しっかりした意思をつくることができます。人々は廃絶運動や廃絶のイニシアチブを強めることに参加するようになるでしょう。ですから、これらの自発性は意思決定者に対する影響力を広げ、強めます。影響力の増大によって、意思決定者に核兵器廃絶条約へ踏み出すよう促進するでしょう。

ここ NY で私たちは Bang-europe (核兵器禁止世代ヨーロッパ) と一緒に、このモデルにならおうと頑張っています。私たちの NPT 再検討会議に向けた行動のスローガンは、「グローバル ゼロ ナウ (今こそ廃絶を)」です。

最初に、日本も参加した情報を載せたポストカード作戦を始めました。加えて先週の土曜に平和会議で分科会を開催し、フェスティバルでは紹介コーナーを設けました。

2 番目に私たちと「核兵器のない世界」という目標について、注目し注意を払うように呼びかける街頭行動を準備しました。月曜日には国連本部で門前行動と朝食会、金曜日には独自にハマースホルド広場でお祭りをしました。

この他、NPT 再検討会議の間ずっと外交官たちにも訴えかけています。

これらの行動は異なる組織の若い人たちとの大きな共同があるから可能なではありません。私たち次の世代が、一緒に動き私たちの奮闘を合体させることが重要なのです。

生命を脅かす核兵器遺産を引き継ぎたくないんだと示すために、私たちは結束していかなければなりません。

ご清聴ありがとうございました。